

# 日本スペインピアノ音楽学会 JSSPM

## 学会誌 第6号 原稿投稿規定

2021年9月30日改訂

当学会誌に投稿可能な原稿の種類は、スペイン、イベロアメリカのピアノ音楽に関する「論文」「研究ノート」「紹介・報告」「エッセイ」である。いずれも未発表、未公刊でなければならない。投稿の応募資格を擁する者は、当学会会員に限る。

「論文」は、先行研究を多角的に検討したうえで独創的な知見が示されているだけでなく、脚注などによって、その知見の裏付けを実証的に示す手続きがなされていることが必要となる。論文としての条件を満たせば、「事例研究」「事例報告」の類も投稿可能である。

「研究ノート」は、論文の体裁はとらないものの、学会誌にふさわしい専門的研究や調査報告の記事を指す。

「紹介・報告」には、楽譜、CD、図書を対象とする紹介記事や、演奏会・コンクールなどの記事が含まれる。

投稿応募の申込締切・・・2021年10月末日

原稿提出期限・・・2022年1月末日（厳守）

\*完全原稿状態での電子データ(google document と pdf 両方)をメール添付する。

### 査読及び原稿の採否

査読は編集委員会が依頼した査読委員複数名により行われ、担当の査読委員は、独自性、論理性、実証性、有効性などを踏まえて、総合的に掲載の可否を判断し、評価を採択、修正採択（修正を条件とする）、修正再査読、不採択として編集委員会に回答する。原稿の採否は編集委員会により決定される。修正採択の場合、原稿のページ数の増減は、投稿規定の限りではない。

査読委員による査読・・・2022年2～3月（予定）

執筆者校正・・・2022年4月

冊子刊行・・・2022年5月

投稿申込先：日本スペインピアノ音楽学会 学会誌担当 biblio.jsspm@gmail.com

原稿の提出先：日本スペインピアノ音楽学会 学会誌担当 biblio.jsspm@gmail.com

## 《論文・研究ノートの様式》

### 1) 分量の目安

本文、参考文献表、巻末資料を含めて、以下の分量を目安とする。

(1 ページは文字データのみの場合で約 1200 文字)

- 論文 20 ページ以上 30 ページ以内
- 研究ノート 10 ページ程度
- 紹介・報告 2 ページ～6 ページ程度
- エッセイ 2 ページ～6 ページ程度

### 2)本文の書式について

①ページレイアウト：A4 版、横書き、1200 字詰め

(40 字×30 行、文字数と行数を指定する)

②余白：上下 35mm、左右 30mm

③フォント：

タイトル（主題）→中央揃え、14 ポイント、

Windows では MS ゴシック、Mac ではヒラギノ角ゴシック Pro

英文タイトル→中央揃え、14 ポイント、Windows では Century、Mac では Ariel

タイトル（副題）→中央揃え、11 ポイント、

Windows では MS ゴシック、Mac ではヒラギノ角ゴシック Pro

英文タイトル（副題）→中央揃え、11 ポイント、

Windows では Century、Mac では Ariel

氏名→右揃え、10.5 ポイント、Windows では MS 明朝、Mac ではヒラギノ明朝 Pro

氏名ローマ字表記→右揃え、10.5 ポイント、Windows では Century、Mac では Ariel

※ 苗字を先に全大文字で、次に名前を頭大文字、以下小文字で表記する。

例：TAKEMITSU Toru

本文→10.5 ポイント、

日本語・・・Windows では MS 明朝、Mac ではヒラギノ明朝 Pro  
欧文・・・Windows では Century、Mac では Ariel

### 3) 章立てについて

①論文、研究ノートについては、章に分けて構成、または小見出しをつけること。

②章および小見出しは 1. 2. …と表記、10.5 ポイント、太字。

章の中の項目は 1) 2) …と表記、10.5 ポイント、小見出しから 1 段空ける。

章、小見出し、および項目の数字、ドット、「 ) 」は半角。

小見出しは、反復して記載しないこと。

例： ◎ 1. アルベニスの生涯

1) 少年期

2) 青年期

✕ 1. アルベニスの生涯

1- 1) 少年期

1- 2) 青年期

③紹介・報告記事、エッセイについては、この限りではない。

### 《記載方法について》

#### 1) 作品名及び作曲家の表記について

①作品タイトルは《 》で括る。

②組曲のように複数の曲がまとまって構成されている作品内の個々の曲については、〈 〉で括る。

③書名は『 』、記事名は「 」とする。

④主要な人名は初出時にフルネームで記し、原綴と生没年を併記する。数字は en ダーシで繋ぐ。 例：イサーク・アルベニス Isaac Albéniz (1860-1909)

⑤日本人の名前は初出時にフルネームで記し、丸括弧内に生没年を併記する。数字は en ダーシで繋ぐ。 例：武満徹 (1930-1996)

#### 2) 数字、アルファベットについて

本文中の数字（年号、作品番号など）やアルファベットは半角で表記する。

#### 3) 本文中の引用について

①短い引用は鉤括弧「 」を使う。

②長い引用は独立した段落とし、前後の段落とは 1 行空けて全角 2 文字下げる。

- ③引用文中の中略には [……] を用いる。
- ④楽譜の引用は、都度 © (copyright) を明示する。
- ⑤引用の出典文献は、論文では本文中で ( ) にて著者姓と発行年、引用ページを明記する。

例： (山田 1960: 139)

書誌情報は本文の後ろの補注にて番号順に表記する。補注および、引用文献の記載方法については、4)、5)を参照のこと。研究ノートにおいてはこの限りではないが、可能な限り論文に準じる。

#### 4)補注について

- ①原則として尾注を用いる。
- ②本文の当該箇所につき数字で示し、その注を本文の後ろに記載する。

例：本文中 「○○○」<sup>1</sup>  
尾注にて <sup>1</sup> 補足説明

#### 5)引用文献・参考文献・参考資料の記載について

引用文・図版などの出典文献の記載方法は、3)⑤、4)も合わせて参照のこと。参考文献表は、論文末尾に著者名の五十音順、欧文書籍の場合は著者名のアルファベット順に記載する。補注で引用の出典文献を明記している場合は、重複を避けて、参考文献としての記載を省略する。インターネット上の執筆者不明記事 (Wikipedia を含む) の引用は禁止とする。インターネット上のサイトを参考にした場合は、以下のように表記。

著者 (年) 「題名」 入手先 URL (閲覧日)

#### 6)日本語文献の記載書式

①文献：著者または編者名 翻訳者がいる場合は翻訳者名 出版年 (必要な場合は「関連章名」) 『文献名』 (引用文献の場合は、該当頁.) 出版社

※ 出版年は第1刷の年を表記すること。

- ②雑誌：著者名 出版年「記事題目」『雑誌名』 巻, 頁.
- ③新聞：『新聞名』 刊行年月日, 頁. (執筆担当記者名が記されている場合) 記者名 刊行年月日「記事名」『新聞名』 頁.

④CD ブックレット：解説者名 リリース年 《CD タイトル》 演奏者上限 3 名 (複 数名を記載する場合はそれぞれを ・ で区切る) 制作会社 制作地 (引用文献の場合は、該当頁.) 引用の範囲を示す場合は、数字を en ダーシで繋ぐ。一つの文献が 2 行以上にわたる場合、2 行目以降は左端を全角 2 文字分下げる。

#### 7)欧文文献の記載書式

- ①欧文文献の著者名は、姓, 名 の順に表記する。

例： Granados, Enrique

②『』は使用せず、タイトルはイタリック体で表記すること（シカゴマニュアル）。引用文献の場合、該当するページ数は最後に入れる。

例： Clark, Walter Aaron 2006, *Enrique Granados Poet of the Piano*, Oxford University Press, 142-143.

③編集書である場合、編者名のあとに(Ed)、複数いる場合は(Eds.)を付す。

④CD ブックレットの場合：解説者名(リリース年), CD タイトル (イタリック体 で表記), 演奏者上限 3 名 (複数名を記載する場合はそれぞれをセミコロン;で 区切る), 制作会社, 制作地 (引用文献の場合は、該当頁.)

例： Paniagua, Carlos (2002), *Mudéjar*, Olavide, Begoña (Voz, Salterio); Amusatogui, Ramiro(Ud); Estevan, Pedro(Percusión), JMPA005 JUBAL, Málaga  
(括弧やカンマも半角とする。カンマとセミコロンの後は半角空ける。)

## 8)鍵括弧のフォントについて

( )《 》〈 〉等の鍵括弧は、日本語の文章では、特に理由がない限り全角の括弧を使う。文章の中で、数字や欧文を挿入するためには半角の括弧を使い、その場合は、「(」の前と「)」の後ろに半角スペースを入れること。

※ 〈 《 →全角

< ≪ →全角であるが、数学の記号として使われるため注意を要する。

## 《その他の注意事項》

### 1)原語の単語の行またぎの処理について

原語の単語が、文末から文頭へかけて行をまたいで現れる時は、その音節分けを辞典にしたがって適切に行う。

### 2)本文中に挿入する参考資料（図表・写真・グラフ等）の掲載について

①本文の内容理解のために最も適切と判断される箇所に記載する。

②転載については、掲載元の許可が必要となる場合があるため、十分に留意する。

③転載希望の資料について許可申請先が不明の場合は、JSSPM に連絡する。